

1. 科目名 (単位数)	幼稚園教育実習指導Ⅱ (1単位)	3. 科目番号	JNEL2433
2. 授業担当教員	荒木 由紀子		
4. 授業形態	講義や演習 (実習Ⅰの反省、遊び・一斉活動による保育等) 一日の保育についてグループで討議し、計画と実践、反省を具体的に体験して実践的に学び合うことを重視します。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	幼稚園教育実習指導Ⅰの単位取得後の履修が望ましい		
7. 講義概要	幼稚園教育実習Ⅰの反省・省察をもとに、保育の実際から、幼児の理解を深めるとともに、幼児の育ちに 応じた指導の在り方をビデオや演習による学習を加えながら学びます。 保育の1日実習の模擬保育体験を中心に、幼児の主体性を育む「環境による教育」を具体的に学びます。 (保育過程の理解、教材研究、一日の指導案の作成、指導方法、計画・実践・反省の関係等)		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習Ⅰの反省をもとに、1日の流れに沿って、具体的な保育場面の子ども理解と指導のポイントをとらえ、説明できるようになる。 ・幼稚園における保育内容、ねらい、指導の関係を具体的に理解し、説明できるようになる。 ・子どもの生活を理解し、日々のつながりを踏まえた1日の保育計画を立てられるようになる。 ・子どもの活動を総合的に把握し、教師の役割や専門性について理解を深め、実習Ⅱの課題設定につなげて説明できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	一日保育の指導 (保育) 計画を作成し提出する。 模擬保育の体験などを通しての学びを発表し合う際の発表原稿や製作物等をレポートにまとめる。		
10. 教科書・参考書・教材	教科書：関口はつ江監修「自分を生かす保育実習ハンドブック」大学図書出版、2022年 参考書： 東京福祉大学編『幼稚園教育実習の手引き』 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』2018年 演習等の資料としてプリントを配付する。保育場面を取り上げた教材ビデオ等を視聴する予定。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1 授業中での模擬保育や幼稚園教育実習Ⅰを通して、保育者としての課題や目標を考えられる・ 2 幼児のよりよい発達を促す保育の内容や方法 (各年齢の生活や発達の特徴、環境の構成、保育者の援助) などについて理解を深め、一日の指導計画を作成できる。 ○評定の方法・・・授業への取り組み姿勢、課題提出、期末レポート等を総合して評価する。 授業態度 (総合点の30%) 提出物 (総合点の20%) レポート (総合点の50%)		
12. 受講生へのメッセージ	幼稚園教育実習Ⅰの実習成果や課題などを基盤にし、本科目での学習を通してさらに子ども理解を深め、子どもたちのよりよい発達を促す保育計画の作成や指導の実践ができるようにしていきましょう。そのためには常に自己課題を明確にしておくことです。今までの科目学習をフル活用して頑張ってください。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業内容と授業計画 幼稚園教育実習Ⅱの目的と内容 幼稚園教育実習指導Ⅰの感想及び課題等をまとめる。	事前学習	既に配付されている『幼稚園教育実習の手引き』を通読し、重要事項にマークをしておく。教育実習Ⅱの目的や内容を調べておく。
		事後学習	幼稚園教育実習指導Ⅰの感想や課題を発表できるように用意しておく。
第2回	幼稚園教育実習指導Ⅰ、幼稚園、保育所実習等の感想及び課題について 実習生の心構え、実習生としての在り方、子ども理解と保育者のかかわり方 (実習園の保育者との関係、子どもへのかかわり) 発表	事前学習	保育所実習や幼稚園教育実習指導Ⅰの感想や課題を発表できるようにしておく。
		事後学習	幼稚園の一日についてシートに整理してまとめる。
第3回	実習日誌の作成についての課題、 実習日誌の書き方	事前学習	実習日誌についての疑問や課題などを整理しておく。
		事後学習	第1～3回までのふり返しをしておく。
第4回	保育実践上の事例研究① 保育事例をDVDで視聴し、実習生として望まれる態度を理解する	事前学習	実習生を受け入れる園側の思いについてまとめておく。
		事後学習	DVD視聴やグループ討論で得られた学びをまとめておく。
第5回	保育実践上の事例研究② 保育事例をDVDで視聴し、子どもの育ちを理解する。	事前学習	保育者の援助・留意点等についてまとめておく。
		事後学習	DVD視聴やグループ討論で得られた学びをまとめておく。
第6回	全日実習 (責任実習) の目的と内容 ・「一斉活動」の意義と保育のポイント ・一日の反省評価を翌日の指導 (保育) へ 模擬保育で取り上げる活動の選定、教材研究 (個人またはグループ活動)	事前学習	教科書の該当するページを読んでおく。
		事後学習	HP等で自分が行く実習園の概要を調べておく。模擬保育で対象にする年齢の一般的な姿を調べておく。

第7回	一日の指導（保育）計画の作成の仕方 ①幼児の姿（様々な時期の生活や発達の特徴） ②一日のねらいと内容 模擬保育のねらいや内容（個人またはグループ活動）	事前学習	『幼稚園教育要領解説』（指導計画の作成に当たっての留意事項）を読み直し、指導計画の基本的事項について理解しておく。
		事後学習	グループの話し合いを基に模擬保育のねらいや内容を指導案用紙に記入する。
第8回	一日の指導（保育）計画の作成の仕方 ③環境の構成 ④予想される幼児の活動と保育者の援助（環境の再構成）	事前学習	模擬保育におけるねらいや内容を踏まえて環境の構成を考え、指導案用紙に鉛筆で記入しておく。
		事後学習	グループの話し合いを生かして、幼児の姿、ねらいと内容、環境の構成を指導案用紙に鉛筆で記入する。
第9回	一日の指導（保育）計画の作成の仕方 ⑤留意点や配慮について 模擬保育の計画を作成する。（個人またはグループ活動） 教材研究（様々な教材について）	事前学習	模擬保育におけるねらいや内容を踏まえて留意点や配慮すべき点を指導案用紙に鉛筆で記入しておく。
		事後学習	グループの話し合いを生かして、留意点や配慮すべき点を指導案用紙に鉛筆で記入する。
第10回	幼稚園教育実習Ⅱの目標や内容、心構え等の確認。 模擬保育の指導計画の作成、模擬保育の教材等の準備（教材研究は個人活動）	事前学習	幼稚園教育実習指導Ⅰの期末レポートを読み直し、目標や課題を確認しておく。模擬保育の環境構成に必要な素材や用具、場や空間を具体的に検討しておく。
		事後学習	指導案に、環境の構成、予想される幼児の活動と保育者の援助及び環境の再構成などを記入し、清書しておく。
第11回	模擬保育（1）の実施と観察 模擬保育（1）について協議、記録の整理	事前学習	模擬保育(1)の提案者は、指導案を指定日までに提出し、授業前までに教材・用具等を準備しておく
		事後学習	模擬保育（1）の記録と考察を作成し、次回に提出できるようにしておく。
第12回	模擬保育（2）の実施と観察 模擬保育（2）について協議、記録の整理	事前学習	模擬保育（2）の提案者は、指導案を指定日までに提出し、授業前までに教材・用具等を準備しておく
		事後学習	模擬保育（2）の記録と考察を作成し、次回に提出できるようにしておく。
第13回	模擬保育（3）の実施と観察 模擬保育（3）について協議、記録の整理	事前学習	模擬保育（3）の提案者は、指導案を指定日までに提出し、授業前までに教材・用具等を準備しておく
		事後学習	模擬保育（3）の記録と考察を作成し、次回に提出できるようにしておく。
第14回	模擬保育を通しての学びや課題についての協議（自身の反省評価、子ども役の記録と考察、観察者の記録と考察から）	事前学習	模擬保育において気づいた課題や学びなどについてまとめておく。
		事後学習	幼稚園教育実習Ⅱの目標や課題などの案を作成しておく。
第15回	期末レポートについて 幼稚園教育実習Ⅱに向けて疑問や課題 幼稚園教育実習Ⅱの諸準備・事後指導等について	事前学習	他の科目の学習、模擬保育からの学びなどを資料に期末レポートの構想をねっておく。
		事後学習	保育教諭を目指す者としての心構えを再度明らかにする。